

日点委通信

No. 1 1985年11月1日発行

発刊に当たって

会長 本間 一夫

日本点字委員会は1966年の発足以来、わが国における点字の表記を決定する唯一の機関として、点字表記法の統一と体系化とその普及とをめざして活動して参りました。この間1971年には『日本点字表記法（現代語篇）』を世に問い、これを基盤に約10年間にわたる協議を重ね、1980年には『改訂日本点字表記法』として一応の体系化を見るに至りました。また、専門分野における点字表記につきましては、本委員会内に設置された数学記号専門委員会・理科記号専門委員会が、1981年に『点字数学記号解説』を、1983年に『点字理科記号解説』をそれぞれ公刊しております。さらに、こうした本委員会の活動を点字に関係する方々に周知していただくとともに広く意見を聴取することをねらいとして、日点委広報『日本の点字』を刊行して参りました。この『日本の点字』も既に12号を数えております。これらは、いずれも関係者の深い御理解と暖かい御支援の賜物と心から篤く感謝している次第です。

ところで、本委員会では年1回委員による総会を開催しておりますが、この8月に開かれました第19回総会において、新たにこの「日点委通信」を創刊することになりました。点字表記法の普及徹底と本委員会の活動をより多くの方々に知っていただくことを念じて計画したものです。内容としては御覧の通り本委員会の事業報告と本委員会で発行している図書類の御案内です。なお、広報の『日本の点字』は従前通り刊行いたしますが、有料で頒布することになりました。引き続き御購読願えれば幸いです。

最近では、一般の高校や大学においては言うまでもなく、小中学校においても多く

の点字クラブが誕生していると聞いております。年々点字に関心を持ってくれる人々
が確実に多くなってきております。これは視覚障害者にとって誠に心強いことであり
うれしいことでもあります。5年後の1990年には、わが国における点字の翻案100周年
を迎えます。そうした状況の中で、この「日点委通信」の発刊に踏みきった本委員会
の意図を御賢察いただき、今後とも一層の御支援のほどをお願い申し上げます。

1984年度 事業報告 (1984年7月1日～1985年6月30日)

1. 第18回日本点字委員会総会開催 1984年8月28日・29日の両日、大阪市の山
西福祉記念会館において開催された。詳細は『日本の点字』第12号に掲載してある。
2. 『日本の点字』第12号の発行 「外来語及び外来語を含む複合語の切れ続き」
点字関係文献目録(2)等を内容として編集し、12月25日に発行した。
3. 「国語審議会への要望書」提出 1985年2月20日に国語審議会が公にした、
「改定現代仮名遣い(案)」に対する標記要望書をまとめ、4月26日に文化庁国語課
に提出した。要望書の内容は『日本の点字』第13号に掲載する。
4. ユネスコ発行『世界の点字表記』改訂に協力 “World Braille Usage”
の改訂に関連して、日本の点字について、この4月にユネスコに回答した。

第19回日本点字委員会総会報告

日本点字委員会は、1985年8月27日・28日の両日、東京都新宿区の戸山サンライズ
(全国身体障害者総合福祉センター)において第19回総会を開催し、次の事項を協議
した。出席委員は本間一夫会長はじめ24名。オブザーバーは9名であった。なお、2
日目の8月28日には、国立国語研究所言語計量研究部長の野村雅昭氏を招き、「複合語
の構成と分かち書きの問題」の御講演をいただいた。講演内容は『日本の点字』第13
号に掲載する。

1 外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きの検討

関東地区小委員会からは「外来語の切れ続きをめぐる」の報告があり、近畿点字

研究会及び日点委関西小委員会からは「外来語の切れ続きについて」の提案が行われた。これらを基に意見交換を行い、近畿点字研究会及び日点委関西小委員会の提案について、各地域委員会ごとに多くの語例に当たるなどして検討を深めることとした。

2. コンピューター用言語の6点式点字表記の改正・追加について

JIS C 6220に規定された各図形キャラクタに対応する点字符号は、制定後4年を経て、フラグの扱いなどに若干の修正が必要となったため相互変換用点字専門委員会の拡大会議において標記の改正案をまとめ、総会に提案し承認された。

3. 「日点委通信」の発刊と配布について

本紙のような内容で「日点委通信」を毎年11月1日に発行し、全国の盲学校及び日盲社協（日本盲人社会福祉施設協議会）傘下の点字図書館・点字出版所等に無料配布することを決定した。

4. 図書の編集・発行について

① 『日本の点字』第8号の特集部分に加筆・増補し、『試験問題点訳の手引』（仮称）として刊行する。

② 『日本の点字』第9号の「コンピューター用言語の6点式点字表記」並びに、第10号の「コンピューター用言語の6点式点字表記の補足」に、今回の総会で承認された改正点・追加事項を加え『コンピューター用言語の点字表記』（仮称）として編集・発行する。

③ 『日本の点字』は第13号以後も従前通り編集・発行を続ける。発行日を毎年1月15日とし、定価を1部500円（送料別）として刊行する。

5. 臨時総会の開催について

今期委員の任期満了を前に、次期委員への引き継ぎ事項をまとめるため、1986年6月中に関東地区において臨時総会を開催する。

『日本の点字』第13号（1986年1月15日発行）の内容について

『日本の点字』第13号は、国立国語研究所言語計量研究部長野村雅昭氏の講演内容、総会における「外来語及び外来語を含む複合語の切れ続き」の討議経過、全日盲研機関誌『盲教育』に掲載された点字関係文献目録などを中心に編集したものです。

頒 布 図 書 案 内

日本点字委員会では、現在次の図書を販売しています。

	(点 字 版)	(墨 字 版)
1	『改訂日本点字表記法』 1200円 (送料無料)	600円 (送料 200円)
2	『点字数学記号解説』 5000円 (送料無料)	600円 (送料 200円)
3	『点字理科記号解説』 1200円 (送料無料)	600円 (送料 200円)
4	『日本の点字 第8号』 400円 (送料無料)	(品 切)
	(特集「点字試験問題の形式」 オ列長音の表記 その他)	
5	『日本の点字 第9号』 300円 (送料無料)	300円 (送料 170円)
	(コンピューター用点字 動詞「する」の切れ続き その他)	
6	『日本の点字 第10号』 400円 (送料無料)	400円 (送料 200円)
	(国語審議会への意見書 数を含む語の表記 その他)	
7	『日本の点字 第11号』 400円 (送料無料)	400円 (送料 200円)
	(現代かなづかいの問題点とその展望 点字関係文献目録 その他)	
8	『日本の点字 第12号』 400円 (送料無料)	400円 (送料 200円)
	(外来語及び外来語を含む複合語の切れ続きについて その他)	
9	『日本の点字 第13号』 500円 (送料無料)	500円 (送料 240円)
	(複合語の構成と分かち書きの問題 国語審議会への要望書 その他)	

『点字数学記号解説』の点字版は、『点字数学記号解説』(1200円)と『点字数学記号解説別冊』(3800円)との2分冊になりますが、分冊販売もいたします。

『別冊』はサーモフォーム印刷によるもので、数式等の形式をも含めた墨字数学記号と点字数学記号との対照表が主な内容です。

墨字版の送料は冊数が多くなれば割安になりますのでお問い合わせください。

御注文は、いずれも下記日本点字委員会事務局へお願いいたします。

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目23番4号 電話 東京03(209)0241番

日本点字図書館内 日本点字委員会事務局 (郵便振替 東京0-42820)